

■ 小学校木造校舎の健康診断「おおむね健全」

広島工業大学

環境学部建築デザイン学科の学生たちが閉校した築85年の小学校木造校舎の「健康診断」を続けている—写真。昨

年度は傷み具合を調査し、本年度は構造への影響や劣化度を調べる計画だ。

木造校舎は広島県安芸高田市にある旧郷野小で、昨年3月に143年間の歴史に幕を閉じた。学生は地元の住民グループの要請で、昨年9月に2日間かけて建物の実測、屋根裏や床下の構造調査、柱と床の傾きの計測などをした。

現地調査後は平面図や床、柱の傾きを示した図面などを作成。現状は「おおむね健全」と判断したが、追加で木材の接合部の詳細な調査や壁仕様の確認などが必要としている。学生たちは地元の行事にボランティアとして参加するなど交流も行っており、さらに調査を続けていく。

